

編集委員長の就任にあたって

日本公衆衛生雑誌

編集委員長

上原里程

2021年1月から西信雄先生の後を引き継ぎ、編集委員長を務めることになりましたので、誌面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は田宮菜奈子先生が編集委員長をお務めの時代に査読委員を担当させて頂き、西編集委員長のもとでは編集委員として6年間本誌の編集に関わらせて頂きました。このように書きますと、本誌のことをよく知る人物のように思われるかもしれませんが、残念ながらそうではありません。査読委員、編集委員のそれぞれの立場で本誌に関わる機会は得たものの、全体を眺めるという視点は持ち合わせておりませんでした。この度、編集委員長のお話を頂いた時に最初に湧いた感情は「大丈夫だろうか」という不安でした。西先生のお計らいで、数か月間は編集委員長の視点で本誌を眺める機会を与えて頂きましたので、これまでとは違う景色が見えて参りました。このような状態で、新たな編集委員会のスタートとなりました。

さて、本誌の特徴はいくつかありますが、編集委員会において多くの編集委員、査読委員の方々のご協力を頂いている点と、原稿の種別として公衆衛生活動報告がある点は特筆すべきと思います。編集委員20人、査読委員約120人という大所帯で編集委員会が運営されている訳ですが、2021年1月から14人の新たな編集委員を迎え、4月には約60人の査読委員の方々が交代されます。本誌が質の高い論文を掲載し続けるためには、編集委員、査読委員の方々のお力が欠かせません。特に査読委員の方々には、少しでも良い論文になるようにと常に支援的査読を心がけて頂いており、心より感謝申し上げます。2点目の公衆衛生活動報告は、原著とは異なり、公衆衛生の現場で実践された取り組みなどを報告頂くものです。公衆衛生活動報告をお読み頂くことで、他の自治体等で参考にしたり、新たな取り組みに発展させたりすること等が期待されます。最近では、災害対応や新型コロナウイルス感染症に代表される感染症対策等の健康危機管理に関する投稿が増えてきており、今まで以上に現場での活用が期待できる論文の掲載に努めていきたいと考えております。

本誌が質の高い論文を掲載し続けるためには、会員の皆様から多くのご投稿を頂くことが何より大切です。ご投稿頂いた論文については編集委員会一同で真摯に向き合い、公衆衛生の発展に寄与できる雑誌で有り続けるよう精一杯取り組んで参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

